

第5回平塚市立地適正化計画専門部会会議録

- 1 日 時 令和6年7月25日(木) 午前10時00分～午前12時00分
- 2 場 所 平塚市役所本館 619会議室
- 3 出席委員 8名
梶田 佳孝、佐々木 健充、鈴木 秀一、杉本 洋文、入江 彰昭、
齋藤 謙司、岩崎 浩臣、奥山 誠
- 4 欠席委員 3名(1名不在)
- 5 平塚市出席者 まちづくり政策課長 平田 勲
都市計画担当
課長代理 古部 永二郎
主 査 石上 晃
主 査 遠藤 哲彦
主 任 飯嶋 咲江
- 6 会議の成立 委員の2分の1以上の出席を得ており、平塚市都市計画審議会
条例第6条第2項の規定により、会議は成立していることを報告。
- 7 傍 聴 者 0名
- 8 内 容
(1) 立地適正化計画素案について

(1) 立地適正化計画素案について

立地適正化計画素案について、事務局より資料 1、資料 2、資料 3-1、資料 3-2、参考資料に基づき説明を行い、意見聴取を行った。
なお、部会で出た意見は、以下のとおりである。

【部会での意見】

(委 員)

平塚駅周辺に家電量販店がなく困っているという話を聞くので、誘導できないか。

(事務局)

家電量販店は立地適正化計画の誘導施設には該当しない。誘導施設は生活利便施設の中でも、市全域の方が利用する施設を位置付けている。ただ、家電量販店は幹線道路沿いに多く、公共交通や人口の維持によって、維持が図られるものと考えている。

(事務局)

平塚駅周辺地区将来構想でも、家電量販店とは記載していないが、まちづくりの進展に伴い立地する多様な生活利便施設が誘導される中で、需要があれば誘導される可能性はある。

(委 員)

今後、駅前にできるマンションの居住者にとっても家電量販店ができれば便利になるだろう。遠くまでいかないと家電量販店がないのは不便だ。

(委 員)

資料 1、45 ページにある旭方面軸の記載が修正されるという説明があったが、概要版も同様に修正してほしい。

(事務局)

指摘部分も含め概要版はボリームや構成を今後さらに修正していく。

(委 員)

立地適正化計画は、都市計画上最上位に位置する計画なのか。

(事務局)

都市計画では、立地適正化計画は都市マスタープランの一部とみなされる計画である。

(委員)

目標及び進捗管理の部分があまりにも記載が少ない。所管部署がわからないので、どの部署が指標に対して評価するのか、PDCA の流れが見えない。これは次の計画に記載される予定なのか。PDCA のチェックができないと意味がない。

(事務局)

資料 1 の 6 章に挙げられている指標は、居住、都市機能、交通の代表的なもの 1 つしか挙げていない。これは全市的にモニタリングできる一般的な数字を挙げている。これ以外に PDCA を確認するために、各施策に紐づく各計画で目標値を設定してチェックする体制としている。よって、立地適正化計画についてはまちづくり政策課がチェックを行い、それ以外の各計画はそれぞれの所管課がチェックを行うこととしている。ただ、このチェック体制がわかりにくいので、記載を工夫したい。

(委員)

PDCA の計画についてはよく分かるが、実施する事業や評価に関しては担当部署などの詳細が分からない。例えば、138 ページにある指標で「市民主体のまちづくりに向けた意見交換の実施回数」という指標は、まちづくりの進捗が見られずとも、実施していれば良いことになる。本来は実施した結果どうなったのか、どこまで進捗がみられたのかを管理指標にすべきだろう。すごく良い方針が記載されていると感じるが、本当にまちづくりが進むのかが理解できない。即時判断しづらい内容だとも思うので、今後考慮してもらいたい。

(事務局)

市の施策は、5 ページにある関連分野の計画で位置付けている。ただ、市の施策だけではなく、民間事業者や市民の動向に委ねられている部分もある。そのため、まちづくりの意見交換を指標とするのであれば、本来は目標を設定してどのように達成するか、という指標になるはずだが、地域の目標を市が主体となって立てられるものではないと考えている。しかし、意見交換を積み上げなければ、市民がどのようなまちにしたいか、という目標を設定することは難しい。よって、指標は意見交換の実施回数とすることになった。意見交換の実施回数を重ねればよいと考えている訳ではない。

(委員)

上位計画になるほど抽象的になってしまうことは理解している。ただ、市民

として求めているのは具体的な内容だが、それが今の計画書では見えてこない。市民一人一人の意見をいちいち聞いていたら際限ないが、市民が要望する施設を作らない理由は説明できるようにしてもらいたい。

(事務局)

立地適正化計画の中では、まちづくりビジョンの考え方を示し、地域主体のまちづくりを推進している。市からの押し付けた目標では意味がないので、市と市民と話し合いを重ねていくという方向性である。

(委員)

若い世代は自治会に参加できないことが多いので、自治会の現状は高齢化と委員のなり手不足で機能していない。自治会に過度な期待をしないほうがよい。

(事務局)

必ずしも自治会単位だけではなく、平塚市には地区まちづくり協議会があり、現在は5団体ある。市からまちづくりについて啓発をしながら、地域の勉強会等を重ねていく必要があると考えている。

(委員)

全国的にも地域の活動にいかに若い世代を参加させるか、が課題である。立地適正化計画を契機として、若い世代を参加させるための具体的な施策が実施されていくと良い。

(委員)

他市では、地区ごとに3人ほどの担当者を配置していて、地域に問題があればその担当者へまず話して、市の各担当へ繋げる交通整理する仕組みができているところもある。これにより地域の問題を把握できるが、これをやらなければ市と市民のコミュニケーションは成り立たない。きめ細かい地域へのフォローができるよう、他市の事例を検討すべき。自治会は疲弊しているが、それを担当課は把握していない。地域ごとに問題は複合化しているので、担当者がいるかどうか、が大切になるので、地域への問題に市が踏み込むべきである。さらに、実行性のある計画とするためには踏み込んだ内容の記載が必要である。例えば、アドバイザー派遣制度は具体的な記載がないので、実行性がないのではないか。市民参加のまちづくりを推進するのであれば、体制を再検討すべきである。

(事務局)

各地域へ出向き意見交換会を2回実施し、計画策定を進めている。アドバイザー派遣制度は、各地域からの要望があれば、費用は市の負担でアドバイザー

を派遣する制度があるので、これを利用する想定で計画に記載している。また、地域ごとに担当者を配置する体制はとっていないが、地区まちづくり協議会には概ね2か月に1回程度、意見交換会を行っているところもある。できる限り地域との交流を重ねていきたい。

(委員)

地区まちづくり協議会の事例を計画に記載したほうがよいのではないかと。協議会の設立数や、協議内容によるまちづくりの達成状況などを、指標にできると良い。まちづくりのNPO団体はあるのか。

(事務局)

吉沢地区にはNPO団体がある。66ページにコラムでまちづくりの状況を紹介している。また、130ページにまちづくり協議会の記載があるが、ご指摘を踏まえ記載を検討していきたい。

(委員)

今までの意見に関連して、2つ意見がある。1つ目は、グリーンインフラの観点の追記ができたことは良かったが、さらに流域連携の視点も追加できると良い。金目川水系・相模川水系内に居住者がいるが、ハードとソフトでの流域連携があるが、ソフトでの流域連携に言及できると良い。都市と農村との交流、上流と下流の連携に加え、平塚市内での郊外拠点同士や、中心市街地と吉沢地区のような郊外地域との連携を普段から行っていくことが、地域防災力を高める意味でも重要であるため、131ページの下部の空白部分にコラムで追記できると良い。2つ目は、138ページの指標が少ないと感じる。表紙副題にあるように、暮らし続けられるまちになるためには、目標をチェックする体制が必要になるだろう。ソーシャルキャピタルが高いと住み続けられることに繋がるので、ソーシャルキャピタルとしてどれだけ連携できたか、活動実績を踏まえてどのような効果が得られたのかを、138ページの(5)多様な主体の連携によるまちづくりの推進に関する指標に追加してもらいたい。流域連携、市町村交流、小学校・中学校の教育プログラムの実施などが考えられる。

(事務局)

防災分野での流域連携の流域治水は想定していたが、まちづくりに必要な連携は想定していなかったもので、ご指摘のとおり追記していきたい。

(委員)

44ページの「バス・自転車・その他のモビリティによるフィーダー交通ネットワークの組み合わせにより」とあるが、これはどういうイメージか。

(事務局)

公共交通はバス、電車を指していて、その他のモビリティは電動キックボードやグリーンスローモビリティなどを大きく捉えている。公共交通軸とフィーダー交通の比較では、フィーダー交通は路線バスを補完するような自転車等を想定している。

(委 員)

45ページのサイクルアンドバスライドはどういうことか。

(事務局)

自転車はバス停に至るまでの補完する役割の位置付けで、バス停から降りた後に自転車に乗り換えるということである。

(委 員)

ツインシティは北の核となっているが、平塚駅から向かうバスは平日に1時間に1本しかなかったと記憶している。バスをメインとしているならば、この現状はどう考えるか。また、倉見との橋の計画はどうなっているのか。

(事務局)

ツインシティへ直接向かうバスは1時間に1本かもしれないが、その他の経由するバスもあり、これらを含めて厚木方面軸としている。バスの運行はバス事業者が需要を見極めて決定しているが、引き続き市としてもバス事業者へ協議していく。橋は神奈川県が都市計画決定をしているが、まだ具体的な完成時期は示されていない。

(事務局)

今後の予定について、本日頂いたご意見を踏まえ、平塚市都市計画審議会を行い、素案としてとりまとめる。11月にパブリックコメントによる意見募集を実施し、素案についての説明会も同時に実施していく。これらの内容の修正を踏まえ令和7年1月をめどに、結果の報告及び計画書を示していきたい。なお、専門部会の開催は次回が最後になる予定である。平塚市都市計画審議会と合同での開催を検討している。

【部会閉会】 午前12時00分